

# トヨコ通信

2007年9月

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>  
e-mail [sanbal@sasada-toyoko.jp](mailto:sanbal@sasada-toyoko.jp)

発行 : 日本共産党笹田トヨコ後援会  
発行日 : 2007年 9月 1日 第61号  
連絡先 : 大垣市室本町5-8  
日本共産党大垣市後援会  
Tel 78-6865 Fax 78-8572

部内資料

## 9月議会 今こそ悪政の防波堤に ～請願署名、予算要望書を提出～



### 9月議会始まる

9月3日より、第3回定例会（9月議会）が始まります。提案される議案は、補正予算や条例の制定など、23項目です。その中には水道、市民病院の公営企業会計決算の認定も含まれています。また、請願として、「大垣市老人医療費助成制度（垣老）の拡充を求める請願」が、「垣老」の拡充をめざす会から提出され、文教厚生委員会で審議されることになりました。日程は以下のとおりです。

### 9月議会の日程

9月		
3日(月)	9:30	議員総会
	10:00	本会議(提案説明)
10日(月)	10:00	本会議(一般質問)
12日(水)	10:00	中心市街地活性化に関する委員会
	13:00	市民病院に関する委員会
13日(木)	10:00	建設環境委員会
	13:00	経済産業委員会
14日(金)	10:00	文教厚生委員会
	13:00	企画総務委員会
18日(火)	9:30	議会運営委員会
	10:00	本会議

### 「垣老」拡充請願署名8800筆を 9月議会に提出

来年4月からいくつかの医療制度の改悪が行われ、その一環として70歳から74歳の医療費負担が1割から2割になります。「これでは安心してお医者さんにかかれない」と大垣の年金者の人々が中心となって「垣老」拡充請願署名運動が行われ、9月議会に提出されました。7月から開始された署名運動でしたが、短期間で8800筆を超える署名が集まりました。その背景には、次から次へと行われる国の医療制度の改悪に対する多くの人々の危機感があり、署名活動は急速に広がりました。

請願では窓口負担1割の堅持と、受給資格者を現行67歳から69歳までのところ、74歳までに拡充するよう求めています。

小泉内閣の「構造改革」は、年金・医療・福祉など社会保障制度をばっさりと切り捨て、暮らしや命・健康など最も重要な課題を地方自治体に押し付けてきました。さらに、教育費や生活保護費など憲法で規定されている国庫負担で行うべく内容まで「地方分権」の名のもとで地方に押し付けようとしています。

今こそ自治体が国の悪政に抗して住民の暮らしやいのち・健康を守る防波堤となるべき時です。今回の「垣老」拡充請願署名に託した市民の願いを大垣市がどのように扱うのか、多くの市民が注目しています。

### 「子育て日本一」とともに福祉豊かな大垣市に 2008年度予算要望書を提出

小泉構造改革以来貧困と格差は急激に進みました。ところが、自民・公明政権は年金・医療・福祉など社会保障制度をばっさりと切り捨て、絶対的貧困が確実に増えています。こうした中で住民の福祉に直接責任を負う地方自治体の役割はますます重要になってきており、2008年度予算編成に際しては、住民のいのちと暮らしを守ることを重点とした予算要望書を提出しました。以下抜粋。

- 1、少人数学級の更なる推進を。また、1学年1クラスの小規模学校であっても「35人学級」の実施を。
- 2、就学援助制度の周知と「民生委員の所見」欄を削除するなど申請用紙の改善を。
- 3、自立支援法に関して障害乳幼児の療育を無料に。また、障害者の利用料負担に、市独自の軽減措置を。
- 4、低所得者に対して、介護保険料および利用料の市独自軽減措置を。
- 5、西濃圏域福祉有償運送運営協議会に対してセダンで福祉有償移送が可能になるよう働きかけを。
- 6、大垣市老人医療費助成制度を窓口負担1割を堅持し、74歳まで拡充を。 など



今月の  
バオバブの木  
(アフリカ)

# アフリカ・ザンビア通信

この夏、夫と2人でアフリカのザンビアを訪問しました。JICAの隊員として働いている長男健史の案内で、ナショナルパークや世界3大瀑布の一つ、ビクトリア滝を見たり、大垣市番組町出身の浅井さんに出会うという奇遇を得て、銅鉱山の町、コッパーベルト州を訪問しました。



## チョベナショナルパークとビクトリア瀑布

今、アフリカは乾季で、母なるザンベジ川にたくさんの動物達が集まってきました。鹿のようなクドゥ、アフリカ象、珍しいフィッシュイーグル、そしてヒポ（カバ）など（下写真）。

また、世界3大瀑布の一つであるビクトリア滝にも行ってきました。ここでマイクロライトという小型2人乗りの飛行機に乗って、滝上空を飛びました。



←マイクロライトでビクトリア滝上空を飛ぶ私



675mの地下で行われている銅鉱石採掘現場を見学



浅井さんの職場と生活の場である Technical and business college 校内にて



ザンビアの家庭料理、地鶏の煮込みと主食のシマ



## 銅の町コッパーで浅井さんとの出会い

ザンビアは世界有数の銅鉱山があり、このコッパーベルト州ルシャンナでJICAのシニア隊員として活躍されている浅井さんにお会いしました。奇遇にも浅井さんは大垣市番組町出身で長女亜依子の同級生のお父さん。浅井さんにはコッパーの街を案内してもらい、ザンビアの家庭料理をごちそうになりました。右手を使って直接食べる地鶏の煮込みと、主食のシマ。大変おいしかった。



## 平和を愛するザンビアの人々

ザンビアは銅鉱山やナショナルパークなど豊かな資源がありますが、主要な産業のほとんどは外国資本。内陸部であるため、物資を運ぶにも空輸か、他国の陸路を通るため、物価が高くなっています。そのためいまだに貧しく、電気も水道も十分行き渡っておらず、農村部は電気のない生活が続いています。

このように生活は大変貧しいのですが、平和を愛する国民性で、1961年独立以来、戦争はありません。ザンビアの初代大統領カウンダは独立の英雄で今も国民から愛されており、どうやら彼の平和思想が生きているようです。日本の9条の精神に通じるものを感じました。



奴隸商人が奴隸達を木陰で休ませた木。カウンダはこの木を見て涙したといわれています。現在は記念樹として保護。